

2024年6月25日

学校法人三幸学園
東京ビューティーアート専門学校
校長 中村 光一 殿

学校関係者評価委員会
委員長 中島 えり

学校関係者評価委員会実施報告

2023年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 石川 茜 (FAVORIX BEAUTY 株式会社 経営企画室主任)
- ② 岡西 美緒 (株式会社 TAT 東日本営業部 課長)
- ③ 初谷 芙美香 (株式会社 田谷 人材戦略グループ採用チーム)
- ④ 中島 えり (第13期卒業生)
- ⑤ 平井 宏子 (SANKO日本語学校東京 専門課長)
- ⑥ 齊藤 亜希 (飛鳥未来きずな高校お茶の水キャンパス キャンパス長)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2024年6月25日 (会場 東京ビューティーアート専門学校 1001 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度 学校法人 三幸学園 東京ビューティーアート専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 渡部 景子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 中島 えり

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

教育理念の基、社会で必要とされる人材育成の強化を図り、美容業界の現場で活躍できる生徒を多く輩出するために、在学期間中から現場を意識した指導した。また、様々な授業を通し心の成長に繋がる機会を設け、あらゆる現場で対応していく力(接客スキルなど)を養った上で、自身の就職先に似合った力を付けていく指導をおこなった。

- ・ 学生に対して初期対応を心掛け、学科会などでの情報共有の強化を図った
- ・ 生徒の多様化に伴い、2024年度は時間割の工夫など登校しやすい環境設定の工夫に取り組んでいる
- ・ 15回分の授業を、集中講座という形で外部講師による、業界に必要な知識・技術実践に即した内2日・3日間に集約して受講させた(科目: SNS・フオトスキル)。日常の授業数が減ることで生徒の負荷軽減はもちろん、業界理解や具体的なスキルアップの促進が図れただけでなく、就職活動への繋がりが持てた。→オンデマンドとのハイブリッド授業の強化をし、集中講座等で集中的な学び機会を提供した。

② 学校関係者評価委員会コメント

中島委員(美容科・トータルビューティー科について)

現代の生徒の傾向を踏まえ、単位制である事はニーズに沿っていると感じる。学校という環境の中での一面と社会に出てからの活躍はイコールではなく、社会人になるまでの過程を支援する形として学校側の段階を踏んだ成長を支援する姿勢や取り組みによって、救われる生徒がいるし、今後もそうであろうと思う。

・学校関係者評価委員会の前に授業を見学しトータルビューティー・エステティック科の現2年生とコミュニケーションを取ったところ、週4日制であることについて「助かる」という声が多数聞かれた。

岡西委員(トータルビューティ科について)

- ・基本的には好きなことに意欲を持ち続けて欲しいという願いからサロン側も「個に寄り添う」風潮はあると感じる。学校側の「意欲はあるが、通い方や社会一般的なビジネス慣習になれていない」学生に寄り添い、段階を踏んだ社会人教育を展開していることは、昨今のサロン教育の考えにも通ずると感じる。
- ・一定の技術を持っていることは必要だが、それ以前に「挨拶・感じの良い振舞いができる」マナー・人間力が非常に大切。ネイルサロンでは、対人コミュニケーション力を図るテストも実施していることもある。(お客様に対して最適・不適な対応の判断の可否を図る)

初谷委員(美容科について)

- ・対人コミュニケーション力や人前で発言(プレゼンテーション)する力を磨けるような取り組みは、学校でも現場でも大切であろうと考える。田谷でも新人研修で重要視しているスキル項目である。

齋藤委員(美容科・トータルビューティ科について)

- ・現在は高校生の13人に1人が通信制高校出身者と言われている。通信制高等学校では生徒間の衝突を見越した上で、実行委員やディスカッションする機会を意図的に提供していたりする。行事への参加も本人の選択権があるので、過去小中高時代に、対人的な問題を抱えていた生徒はそこに触れずに卒業に至るケースもあるので、個によるという側面は前提にある。

平井委員(美容科・トータルビューティ科について)

- ・多国籍・多文化の環境下で、違ったバックグラウンドを持った学生たちが「共生」する価値を高められる教育を目指している。同じ母語話者同士でコミュニケーションを取った方が事がスムーズに進むことは多いので、学生たちがそのような行動をとる気持ちはわかるが、客観的にその光景を見ると、良からぬことを話しているのではないかと誤解を生む原因にもなり得る。このような「他人の立場」で物事を考えられる習慣を身につけさせることは、国籍問わず、現代の若者に対する社会人教育として大切になると感じる。

初谷委員(美容科について)

- ・当社では「企業理念」への理解・浸透のための研修をまず行い、その後「言葉遣い・敬語」に関する研修を実践的に行っている。言葉遣いやマナー教育は学校でも行われていると思うので、その延長に近いものと思う。しかし、新入社員の言葉遣いがままなっていないことは例年の課題になっている。

石川委員(トータルビューティ科について)

- ・当社でも同じく、企業理念浸透、言葉遣い、社会人常識(公然マナー)の定着を目的とした新入社員向けの研修を実施している。

岡西委員(トータルビューティ科について)

- ・ネイルサロンも同様の教育を重視している。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

遠方の保護者様も多いため、オンラインにて保護者会の実施をした。配信トラブルもあった為、当日参加が出来なかった保護者へ向けてオンデマンド動画を共有し、学校の教育方針や理念・育成人材像等、理解と共感を得られるよう伝えることができた。次年度は保護者様の理解度を高めるためにも、新入生の不安解消の為にも、生徒の初回登校日と合わせて対面にて保護者会を実施したい。

また、学校教育への理解・浸透を図る為の取り組みとして、10月に1年生保護者様対象とした授業参観を実施したところ、多くの保護者様にご参加いただくことが出来た。次年度は全学年に広げ、授業参観を実施したい。

② 今後の改善方策

入学時オリエンテーション研修後の継続した指導・教育を強化することや就職対策・自己啓発を目的として授業とも連携し、校舎内での掲示物や普通の学校生活から、教育理念を伝え続けていることを保護者会等で伝えること(工夫)も検討していきたい。

社会情勢は変化し続けている為、業界のニーズに着目し続け、より情報収集に努めていきたい。

③ 特記事項

教職員へは定期的に三幸学園のミッション・ビジョンを浸透させる機会を設け、継続的に実施している。

全体会議の場では、昨年に引き続き「ウィズコロナ時代における専門学校教育のあり方」として佛教大学副学長教育学部教授の原 清治先生に講演頂き、改めて教職員の生徒への対応方法の目線合わせを行った。

④ 学校関係者評価委員会コメント

中島委員(美容科・トータルビューティー科について)

・外から子どもの様子は中々見えないので、学校公開日があることは、保護者にとってはありがたい機会なのではないか。自身も先日、子どもの授業参観に出席した際、子どもの話からだけでは分かり得ない、授業の理解度や参加姿勢、提出物状況等を知ることができ、子どものサポートを考えて行く上で必要な機会だった。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	3
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

運営組織・役割が明確化されてはいるが、適材適所での業務分担や業務の効率化を図り、個々の業務バランスを見た割り振りの必要がある。教育目的と時代に合った学事日程が組まれるよう年間のスケジュールを見直していき業務の効率化に繋げていく。教育活動の積極的な情報公開を行う。

② 今後の改善方策

教職員の指導・実務スキル向上のため、研修を充実させ、より多くの教職員を巻き込んで打合せや意見交換できる場を提供する。また、時間確保や適材適所で業務分担をするため、授業数や校務分掌の工夫を行う。

③ 特記事項

教職員への案内は学習管理システム(Sanko Gate)およびMicrosoftTeams(アプリ)の二つを併用活用してタイムリーな情報提供・ペーパーレス化を図っている。

その他、勤怠管理システムの入力、経費精算システムの利用、給与明細の電子化などシステム化を図っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員(美容科・トータルビューティ科について)

・「生徒のため」と思うと、どんどん仕事を増えていきがちで、当事者メンバーだけでは業務の効率化や本質をとらえた業務遂行を考えるとところまでは及ばないので、管理者側が声を掛けて業務の整理・采配(適材適所、スリム化)をしていっているのが現状。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員 の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

カリキュラムマップを全教員で共有し、カリキュラムの体系化を可視化している。
 複数名の教員が関わる事で連携を強化し、生徒の学びに一貫性を出していく必要がある。
 教育課程編成委員会で頂いた意見をサロンワーク等に反映させ即戦力の人材育成に尽力する。

② 今後の改善方策

デジタル教材など様々な新しい試みが円滑な授業展開につながるように、教員への説明やフォローアップの強化を行い、理解を深めるようにしていく。
 教務研修や OJT 指導者の配置など人材育成にも取り組んでいたが、まだ十分とは言えない。引き続き体系的な教育を推進できるシステムの構築を進める。学科会や全ての講師を対象とし、分野ごとに2か月に1回の頻度で実施している教科会の内容や質、各教科会の共有方法をより構築化していく。

③ 特記事項

教員向けのオンライン授業等の為の事前研修実施や資料を作成し配布している。
 教員業務スキルアップ研修や教員リーダーシップ研修を実施している。

学生を対象とした各種アンケート結果については、会議にて全教職員へ共有し、今後に活かしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

石川委員(トータルビューティー科について)

・エステ業界で言えば、「カウンセリング力」の向上が一番大事と言えるが、「相手に合わせる」ものなので、教えてもらうだけでは難しく、人間性を磨くことがポイントになるので、そこに重きを置いた働きかけができる方が良いのではないかと考える。

初谷委員(美容科について)

・謙讓語・尊敬語の区別がついていなかったり、姿勢としても、自ら考えることを早々に放棄して「どうしたら良いか」と聞いてきたりする新入社員が多い。言葉遣いが丁寧な方が、シャンプーの指名にも繋がりがやすいので、言葉遣いの大切さを、学校教育でも重視すると良いのではないか。

石川委員(トータルビューティー科について)

・現在の学生たちは電話対応について学ぶカリキュラム等はあるのか? 年配客層はほぼ電話で問い合わせ・予約をされるので、電話においても、正しい言葉遣いで適切な対応ができると、即戦力になり得る。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	2
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

安定した求人票・採用枠の確保をするために企業様への働き掛け(企業理解)や姉妹校間の情報共有を強化することが必要である。VQ や産学連携を通じ新たな就職先獲得へ向けて取り組んでいく。
退学率低減の継続と資格試験合格率の更なる向上を図る。

② 今後の改善方策

就職担当教員間での打ち合わせを密に実施し、会議にて就職率を常に共有する。
退学率減少のため、学年チーム担任制をより強化し、教務会議での情報共有をこまめに実施することで、多くの視点から問題点を把握し早期対応を可能としていく。
また、2年生の退学率増加が懸念事項のため、人間関係におけるトラブルについては、カウンセラーの力を借りてカウンセリングの機会を増やし、行事等を通して「共同する力」を伸ばせるよう指導していく。

③ 特記事項

企業様と連携し、就職ガイダンスや企業説明会を数多く実施した。
卒業生向け同窓会サイト「Sanko Link」のHP及び Instagram や LINE 等の SNS を活用し、支援の取り組みを実践している。
全国姉妹校と資格試験対策の情報共有を行い、合格率向上のために模試を全国で実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント**初谷委員(美容科について)**

・だいたい専門学生 1 年生の 11~12 月頃にサロン見学される方が多い。採用開始が 4 月 1 日なので、受付開始次第、すぐに選考に進んでもらっている状況。サロンごとに定員になり次第受付終了となる。
・最近はいリスト志望者はじめ、幅広い職種選択を望む学生が増えている。今年度よりエステティック TBC と業務提携を行い、エステ分野を含めたキャリア選択が今後可能になる見通しがある。

岡西委員(トータルビューティー科について)

・TAT としてはネイル企業と多数お付き合いする中で感じる傾向として 4 月採用受付開始、6 月には終わっている。選考の過程でギャップをなくす取組みを重視したいと考えている。

中島委員(美容科・トータルビューティー科について)

・学校(教員)からの推薦・提案の中で選択しがちだと思うが、美容学生向けにサロン見学やサロン利用を促すクーポン冊子等もあるので、学生に広い視野を持ってもらえるような働きかけもあって良いのではないか。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

卒業生の就職状況の把握とキャリア支援、中途退学者への支援体制も検討していく必要がある。

② 今後の改善方策

担任だけではなく複数の教員にて学生をサポートする体制を構築する為、教員間の情報共有強化を図る。

チーム担任制により、生徒からみた相談窓口が複雑にならぬよう、体系を整えていく必要がある。

学校在籍時より、卒業生向け同窓会サイトの存在を広く周知し、有効活用する。

単年同窓会の取り組みを強化し、卒業生を支援し続ける体制を整えていく。

③ 特記事項

ハイパーQU アンケート(適性診断)を実施し、退学予備軍の把握を行い、早期対応している。

姉妹校と合同で複数名のカウンセラーの先生による相談窓口を設けている。

学生の経済的側面に対する支援体制として、奨学金や各種教育ローンの案内、学生の生活環境への支援体制として、提携している寮等の案内を実施している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員(美容科・トータルビューティー科について)

・多様化する生徒への支援としてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの方々にご協力頂く事は年々重要性を増してきている。学校内に配置できる事は非常に有意義と感じる。

中島委員(美容科・トータルビューティー科について)

・卒業生としてLINEを活用した情報配信は卒業後も母校の取り組みを感じ、楽しく拝見させて頂いている。またオンラインでの面接が増えていると伺い、そのような設備に対応できるよう進路指導室も工夫がなされており、とても支援が充実していると感じた。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

時間割編成に伴い、実習室充実に課題がある。機器の老朽化に伴い不具合が生じる可能性があるため入れ替え等も検討をしていく必要がある。

多彩なコース選択が魅力ではあるが、付随する施設を整備していく事が必要である。

② 今後の改善方策

設備充実のため、機器の購入などを学びの環境を整えていく。

インターンシップでは参加企業様も増えている状況にあり、生徒が実践的な学びをする場を引き続き確保していく。

③ 特記事項

VRを導入し、より深い学びを提供できるようになった。

避難訓練を実施した。

防災マニュアルのハザードマップを生徒がいつでも閲覧できるようデジタルツールとしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

初谷委員(美容科について)

・学生のインターンシップ受入をしている。なるべく、バックヤードではなく、店頭に立ってお客様対応の経験を学生にもさせてあげたいが、学生のモチベーション・取り組み姿勢でその可否は変わってしまう。

石川委員(トータルビューティー科について)

・当社のメニュー施術を学生が行うことはできないが、学生が学校で実際に学んだ技術については、お客様に無償提供することを認めている。学生の満足度も高く、サロンとしても長時間学生を拘束するインターンシップの運営上、これを実施した方が助かるという一面もある。さらに求める事としては自発的にサロンを選択してインターンシップに参加してくれると意欲向上や取り組みの質向上につながると感じる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

適切に募集活動は行われているが、本校の教育だけではなく業界全体を理解していただく必要がある。高校側に対して学校教育をご理解頂き、専門学校での取り組みをご理解頂けるよう引き続き努めていく。

② 今後の改善方策

保護者や高校側に対して学校教育に理解をいただき、業界や専門学校の状況を知っていただき、専門学校進学を前向きに検討できるよう説明を行っていく。また、高校側に対し、学園内の広報専門部署と連携を図り、同様に業界の動向や専門学校教育の理解を図れるよう働きかけていく。

③ 特記事項

体験入学・校内・会場ガイダンスを実施する。

オンラインでのオープンキャンパスを実施。

各種イベントの実施及び告知をする。

入試や学納金について昨年大きなトラブルはなかった。入学前にアンケートを実施しており、入学してからの不安解消に努めている。また年々進路活動の早期化を実感しており、高校1・2年生のオープンキャンパスの参加が活発である。

④ 学校関係者評価委員会コメント

齋藤委員(美容科・トータルビューティー科について)

・現在の通信制高校の在り方として転校生が毎月いる状況はスタンダードである為、連続した進学指導がなかなか難しい傾向はある。当校は転校生受け入れ実施のない学校となる為、1年次から進学に向けての指導をしており、2年次から3年次頭くらいに進路を決定している生徒が多い。ガイダンス等を実施し、専門学校および大学の理解を深める取り組みを実施している。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画(2023年度～2027年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。
 今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

時間外労働については、より一層改善する必要がある。

② 今後の改善方策

人員の確保し、個人の業務負担軽減を図る。

③ 特記事項

個人情報の取り扱いやコンプライアンスの遵守について理解のための研修を実施している。

SNSでの画像・氏名公開には本人の同意を得る事を前提としている。

個人情報が記載されるものは学習管理システム(Sanko Gate)等のツールには公開しない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

中島委員(美容科・トータルビューティー科について)

・子どもの在籍保育園の職員が、三幸学園の卒業生であったことがわかり、職員の名前をオンライン上で検索すると、専門学校在学時の様子がうかがえる写真や SNS 投稿の一部が見られた。専門学校入学に際しては、個人情報の取扱いや SNS 上での画像・氏名公開についての同意を誓約書で交わしているとは言え、本人も卒業後まで画像や個人情報が他人の目に触れることまで想定はしていないかもしれないと思うと、SNS 運用のリテラシー教育は必要だろうと考える。

岡西委員(トータルビューティー科について)

・P マークを取得しているため、年に一度全社として「個人情報の取扱いに関する研修」とテストを実施しており、一定の知識浸透と法令順守は図れていると考える。

石川委員(トータルビューティー科について)

・言葉のニュアンスの受け取り方(感覚の差)でお客様トラブルに発展したことがあった。

・若手社員の中には、写真の加工技術が優れている場合が多く、SNS 活用は積極的に促している。

・退職時は、在職中に知り得た情報や、使用していた写真素材の一切が使用・転載ができないことについて誓約書を取るなどしている。

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

従来実施していたスチューデントサロンなどを実施し地域貢献を実施していく。
産学連携を強化し、ボランティア活動を推奨するとともに福祉の精神を養う。

② 今後の改善方策

ボランティア案件がコロナ前に比べると減っている現状がある。
地域に貢献できる事を模索し、生徒にその機会を提供する事で教育理念の体現をする機会を設ける

③ 特記事項

現在、産学連携案件を多数頂いており取り組みを強化している。目的として実習等機会と細やかな指導を提供し、理論と実践を接続する事を重要に考えている。
実際にボランティア参加やヘアメイクの現場を多く提供することができ、生徒満足度につながっている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

初谷委員（美容科について）

当社では九州地方の就職者が多いが離職者も比例して多い現状がある。
現場を多く経験させてあげる事のできる東京という環境は学ぶ環境として魅力的であり、学生時代から現場を経験し、ギャップを埋める事は生徒が長く現場で働くにあたって非常に重要な経験といえると考えているのでそのような機会提供を通じてお客様から感謝される経験はやりがいや意欲の醸成につながると感じるので非常によい取り組みであると感じる。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

留学生の受け入れ体制をさらに整え、留学生同士の交流を活発にしていく。

② 今後の改善方策

日本語学校との提携強化を行う。

外国人美容師育成事業における特定美容活動の受け入れ先との連携強化をしていく。

留学生指導に関わる教員の知識向上も図っていききたい。

③ 特記事項

留学生取次者を設置している。

留学生サポートセンター(同法人内部署)と姉妹校である日本語学校と連携している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

平井委員(美容科・トータルビューティー科について)

・留学生人数自体は、コロナ時代が明けて増えているが、国籍の変遷・多様化は見られる。アジア圏の中でも、アセアン諸国の学生が増えている。

・留学生の性質・傾向としても 10 年程前と比べると、コミュニケーション力の低下を感じる。実社会の中でも、スマートフォン(翻訳)や教員を介さない接客システムが加速しているので、日本語会話によるコミュニケーションの必需性を当人たちがあまり感じていない現状もある。

初谷委員(美容科について)

・外国人美容師ビザで就職した現 2 年目社員が 3 人在籍している。3 人が所属しているサロンは訪日外国人客も多いので、他言語で接客ができる面でも活躍している。

英語運用能力はそこまで当社では重視していない。日本語運用能力は大事で、当社に応募してくる留学生はどなたも日本語が非常に流暢に話せる。時々、敬語をお客様に教えていただく程度で、それもお客様とのコミュニケーションになっている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

自己評価の結果は概ね問題ないと感じている。

コロナ禍が明け、様々な変化の良い面を残しつつ授業ではオンラインとのハイブリッド化を実施し、就職率の向上において生徒満足度の向上に努めたが、多様化する生徒指導・支援を求められる現在において、対応方法や工夫には課題感が残る。自己評価を基に細部までしっかりと点検・確認し、地域や業界から必要とされる人材を輩出する学校になるために課題を把握し、学校運営をしていく必要がある。

特に現場の意見からはコミュニケーション力の高い人材のニーズが非常に高い事を再認識する機会となり、今後の指導の重要点と捉え普段の学校生活から『挨拶』や『相手を思いやる心』を育てるとともに、技術だけでなく『カウンセリング』や『サロンワーク』などを通じてコミュニケーション力の育成に注力したい。

また授業だけでなく普段の学校生活の過ごし方を見直し、自己実現のため、学ぶ環境の風土・雰囲気作りをし、学校としての存在価値を高めていきたい。

1. 生徒教育(教務)の継続と強化

人間力(マナー・モラル、挨拶やリアクション等)を磨く、主体性、技術力向上の為の取り組みを強化する

2. 退学率の低減への取り組み・就職支援(在学・卒業後)・資格検定の合格率向上に向け、質を高めていく

3. 課外活動や地域貢献活動の強化、卒業生支援の強化を図り、学校の質の向上と存在価値を高める